

## 地域再生計画

### 1 地域再生計画の名称

阿南町まち・ひと・しごと創生総合推進計画

### 2 地域再生計画の作成主体の名称

長野県下伊那郡阿南町

### 3 地域再生計画の区域

長野県下伊那郡阿南町の全域

### 4 地域再生計画の目標

本町の人口は、合併後（1959年）の現在の阿南町となった直後の国勢調査（1960年）では、10,343人であったが、年々減少を続け、60年経過した2020年には、4,299人と6,044人（約58.4%）の減少となっている。国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）が2018年に公表した推計によると、町の人口はさらに減少傾向が続き、2045年には2,439人まで減少する推計が出されている。

年齢3区分人口の割合では、2015年から2020年にかけて、年少人口9.7%から9.2%、生産年齢人口48.1%から45.1%と減少傾向にある一方、老年人口42.2%から45.7%と増加傾向にある。2045年には、年少人口8.0%、生産年齢人口41.0%、老年人口51.0%と、老年人口が過半数を超える推計が出され、少子高齢化がさらに進行することが想定される。

自然動態については、直近の10年間でいずれも死亡者数が出生者数を上回る自然減の状況が続いており、2020年は出生者数11人、死亡数102人と▲91人の自然減となっている。

社会動態については、2009年から2018年の10年間では平均して、年間5.4人の転出超過となっており、2020年は転入者数119人、転出者数153人と▲34人の社会減となっている。

今後も人口減少や少子高齢化が進むことで、税収の減少による行政サービスの低下や労働力や地域の担い手の不足といった課題が生じる。

このような状況のなか、2020年3月に策定した第6次阿南町総合計画（第2期阿南町総合戦略）では、将来人口を維持するためには転出超過傾向となっている社会動態の減少数を緩和することが最も効果的であると推測し、社会動態増減数を0人にすることを目標とし、2018年の社人研推計値の2030年に3,517人となる推計に対して387人の人口減少の緩和により、2030年に3,904人の人口を維持することを目指すために、本計画において下記の4つの基本目標を掲げる。

基本目標1 地域が元気で時代にあった安全・安心なくらし

基本目標2 老いも若きも誰もが主役で活躍するまち

基本目標3 若者を地域で育てるまちづくり

基本目標4 日本中に発信！阿南町ブランド ～人の流れをつくる～

#### 【数値目標】

5-2の ①に掲げ る事業	K P I	現状値 (計画開始時点)	目標値 (2024年度)	達成に寄与する 地方版総合戦略 の基本目標
ア	地域のコミュニティ数	53地区	53地区	基本目標1
ア	診療所常駐医師数	2人	2人	基本目標1
ア	交通死亡事故0日の継続	904日	1,865日	基本目標1
イ	空き家利用促進事業補助金の活用 件数	6件	毎年2件	基本目標2
イ	新規就農者数	2人	5人	基本目標2
イ	年金プラス100万円達成者数	9人/年	29人/年	基本目標2
ウ	住宅新築事業補助金の活用件数	4件	毎年5件	基本目標3
ウ	I C Tを活用した小中学校の他校 との交流回数	2回	6回	基本目標3
ウ	阿南高校卒業生の進学率	46.9%	60.0%	基本目標3
エ	人口の社会動態増減数	△16人	0人	基本目標4
エ	ホームページの町外在住者の閲覧	96,317人	135,000人	基本目標4

	者数			
エ	観光統計入込客数(かじかの湯・道の駅・二瀬キャンプ場)	201,083人	265,900人	基本目標4

## 5 地域再生を図るために行う事業

### 5-1 全体の概要

5-2のとおり。

### 5-2 第5章の特別の措置を適用して行う事業

- まち・ひと・しごと創生寄附活用事業に関連する寄附を行った法人に対する特例（内閣府）：【A2007】

#### ① 事業の名称

阿南町まち・ひと・しごと創生総合推進事業

ア 地域が元気で時代にあった安全・安心なくらし事業

イ 老いも若きも誰もが主役で活躍するまち事業

ウ 若者を地域で育てるまちづくり事業

エ 日本中に発信！阿南町ブランド ～人の流れをつくる～事業

#### ② 事業の内容

ア 地域が元気で時代にあった安全・安心なくらし事業

地域が元気であるためには、自治体の最小単位であるコミュニティの存在が重要です。コミュニティと行政の関わり方を改めて見つめ直し、時代や地域の実状にあった取り組みを行います。また、生涯学習やスポーツなどの同じ興味を持った人同士のつながりを大切にし、ひとが集う元気な地域をつくれます。

安全・安心なくらしのために、誰もが安心して医療サービスを受けられる環境や災害に強い安定したライフラインの整備を行います。また、自分の命は自分で守りお互いが支え合う地域意識の向上を図ります。

#### 【具体的な事業】

- ・集会施設等への支援
- ・まちづくり活動への支援 等

## イ 老いも若きも誰もが主役で活躍するまち事業

労働人口が減少していくことが予想される中で、若者から高齢者まで誰もが活躍し、さまざまな形で地域の担い手となるまちを目指します。

誰もが活躍し地域の担い手となるためには、仕事による収益の確保はもちろんのこと、生きがいを持ち心身ともに健康で仕事に向かえる取り組みを行います。

### 【具体的な事業】

- ・高齢者の働く場の確保
- ・障がい児者の日中活動の場の確保 等

## ウ 若者を地域で育てるまちづくり事業

若者はまちの未来の担い手です。まずは、地域に住み続けてもらう・戻ってきてもらう・外から来てもらう取り組みを積極的に行います。

若い世代の子育ての希望をかなえるために、幼少期から親の手元を離れるまで、切れ間のない形で、地域全体で育てるまちをつくります。

### 【具体的な事業】

- ・結婚活動への支援
- ・子育て支援制度の充実 等

## エ 日本中に発信！阿南町ブランド ～人の流れをつくる～事業

他市町村にはないまちの魅力や資源を地域が共有し、阿南ブランドを確立します。

阿南ブランドを日本中に発信し、まずはまちのことを知ってもらう、次に来てもらう、そして関わってもらう取り組みを行います。

### 【具体的な事業】

- ・空き家銀行制度の活用及び利活用の推進
- ・移住セミナーの開催 等

※1 なお、詳細は第6次阿南町総合計画（第2期阿南町総合戦略）のとおり。

※2 ただし、地域再生計画「信州大学航空機システム共同研究講座における学生及び講座運営支援計画」の5-2（3）に掲げる事業を除く。

## ③ 事業の実施状況に関する客観的な指標（重要業績評価指標（KPI））

4の【数値目標】に同じ。

④ 寄附の金額の目安

78,000 千円（2021 年度～2024 年度累計）

⑤ 事業の評価の方法（P D C A サイクル）

毎年 8 月に外部有識者による効果検証委員会を設置し検証を行い、翌年度以降の取り組み方針、事業等を決定する。

検証結果については、町議会に報告を行った後、速やかに町HPにて結果を公表する。

⑥ 事業実施期間

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで

**6 計画期間**

地域再生計画の認定の日から 2025 年 3 月 31 日まで